



勉強会 報告書

福島とのさまざまな関わり方と 今後の展望

開催日:2019年6月15日(土)

かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

ホームページ <http://kfop.jimdo.com/>

代表メール info.kfop@gmail.com

2019年9月7日発行 不許複製・禁無断転載

1. はじめに

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop) では、福島の現状を伝える事業の一環として、総会開催に合わせて勉強会を企画、開催しました。

東京電力福島第一原発事故による避難を経験した福島県双葉郡では、避難指示の解除が段階的に進み、現地の様子はここ数年で大きく様変わりしつつあります。新しいコミュニティ形成を目指す個人や団体が地道に努力している一方で、さまざまな事情で帰還できずにいる方も数多くいます。今回、中間支援の立場で長く福島にかかわってこられた講師をお招きし、さまざまな取り組みや展望についてお話しいただきました。

2. 開催概要

(1) 日時・次第

日時： 2019年6月15日(土) 14:30～16:30／17:00～懇親会
タイトル： 勉強会「福島とのさまざまな関わり方と今後の展望」
会場： 八洲学園大学 講義室 9A (神奈川県横浜市西区桜木町 7-42)
講師： 鈴木亮さん (一般社団法人ふたすけ 理事／
ふたば地域サポートセンターふたすけ センター長)
主催： かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

〔勉強会次第〕

14:30～15:30 鈴木氏による講演
15:40～16:30 フロアディスカッション
17:00～19:00 場所を変えての懇親会 (講師、勉強会参加者)

(2) 参加者数

勉強会 人 (講師を含む、うち kfop 会員 23 人、一般 4 人)
懇親会 人 (講師を含む、うち kfop 会員 15 人、一般 4 人)

(3) 講師紹介

鈴木 亮 (すずき りょう) 氏

一般社団法人ふたすけ 理事／ふたば地域サポートセンターふたすけ センター長

神奈川県鎌倉市出身。18歳から5年間、ニュージーランド留学し (環境保護学士)、帰国後は国際環境 NGO「アシードジャパン」、全国有機農業推進協議会で活動。2011年から東日本大震災支援全国ネットワークで活動し、2012年に福島担当として、福島市を皮切りに、南相馬市小高区、富岡町に駐在。

3. 詳細

(1) 講演

第一部では、鈴木氏に双葉郡の課題についてお話しいただいた。

2011年に東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）に加わり、福島担当として現地にかかわってこられた経緯と、現在単身でお住まいの富岡町についての情報を、スライドを使いながら説明された。富岡町では、帰還困難区域については夜ノ森地区を中心に「特定復興再生拠点」として整備を進める計画であり、震災当時は約1万6,000人だった人口が避難指示により0になったが、解除後は1,000人を通過点として今後どうやって伸ばしていくかが課題と考えている。

双葉郡に拠点を置くようになって気づいたことは、サポートセンターがないこと、NPOがないこと。震災後に団体設立ラッシュがあったが多くは解散した。地縁が強く、新しいものはなかなか根付くのが難しい。全国ネットワークと県域ネットワークと地元ネットワークとで何とか協働ができないかと考えるようになった。双葉郡未来会議が発足し、6回の会議開催を経て、「双葉郡にサポセンを」というプロジェクトの機運が高まり、ふたば地域サポートセンターふたすけを立ち上げた。

ふたすけで取り組む、双葉郡の地域課題として鈴木氏が今回取り上げたのは、次の3つ。

1：困窮者支援（命にかかわる地域医療福祉の領域）

→行政サービスの抜け漏れに取り組む福祉団体を支援

（ふたば基幹相談支援センター「八色」、こころのケアセンターふたば出張所、8町村の社会福祉協議会など）

2：地域づくり（地域が主役で活性化を目指す領域）

→「ふたば地域サポートセンター」の中間支援機能

（8町村のまちづくり会社、コミュニティカフェ、双葉郡未来会議、相双ボランティア、8町村の伝統芸能保存会など）

3：協働による価値創造（震災前になかった価値の創造）

→交流人口拡大と移住定住コンシェルジュ機能

（富岡町3.11を語る会、浪江まち物語つたえ隊、ふくしまオーガニックコットンプロジェクト、浜通り合衆国など）

双葉郡8町村の復興のフェーズはそれぞれ異なっているが、交流人口拡大と移住定住促進がこれから加速し、課題となるだろうとのこと。イノベーションコースト構想にも注目して、本当に地域のためになるものになるよう提言していきたい。

さらに、家族を伴っての移住を視野に入れた、線量のモニタリング、子育て世代のためにできることについても言及された。

最後に、福島に行かなくても応援できることとして、電力自由化によって現地の電力会社からも電力を購入できること、その情報が得られるウェブサイトを教えていただいた。

第二部では、浪江町から神奈川県に避難された当事者の方と、kfop スタッフ 2 名を加えてのディスカッションの時間を設けた。

まもなく震災から 10 年、大熊町の通称「じじい部隊」が解散するなど、第二フェーズに入ろうとしている。」ヴィレッジ再開などのニュースもあった。参加された皆さんは、これから双葉郡についてどのような情報が欲しいか、機会があれば行ってみたいと思うか、という問いかけたところ、行ってみたいという人が多く手を挙げた。一方で、避難当事者の立場から見ると、外から訪れてくれるのは嬉しいという気持ちと、現地にいるとつらく感じるので自分はとても遊びに行く気にはなれないという気持ちが半々だと、率直に教えていただいた。

福島県の出身の方からは、自分にとっては故郷であり実家があるが、子どもを連れて帰省しても、ある程度の年齢になると一緒に遊ぶ友だちが現地にいないので、あまり帰りたがらない。現地で楽しめる情報が欲しいとのコメントもあった。これについては、農家民泊やゲストハウス、民間の活動などのご紹介があった。

東北を含めさまざまなボランティア活動を長く続けてこられた方からは、一般の人でもまず第一歩を踏み出すことが大事で、気軽に行ける形があれば行く人も増えるのでは、というコメントがあった。

学生を現地に連れていくツアー等の企画運営をされているという参加者からは、今の学生の年代にとって東日本大震災と原発事故は「過去（歴史上）の大事件」という感覚であり、観光のついでにボランティアをするような形もひとつではないかという指摘もあった。

(2) 最後に

短い時間で今回のテーマの全体像をつかむのは難しかったが、講師の率直なお話を通じて、さまざまな課題があり、少しずつでも丁寧に物事を進めていく必要があることは伝わったのではないかと思う。

また、現地へなかなか行けなくても福島を応援するためのヒント、これまでになかった視点をご提示いただいた。

(3) 勉強会・懇親会の様子（写真）



勉強会 第一部



講師の鈴木氏



勉強会 第二部



懇親会

(4) 参加者アンケート集計結果

アンケート回収数は20（男性13／女性6／無回答1）でした。自由記述欄については、明らかな誤字脱字と判断した場合を除き、記入されたとおりに転記しています。

1. 今回の講演会の情報をどこで知りましたか？

a.主催団体による告知／kfop	19
b.登壇者や協力団体による告知／端数倶楽部	0
b.登壇者や協力団体による告知／ふたすけ、ふたばいんふお	2
c.友人・知人からの紹介	1
d.インターネット検索	0
e.その他	0
回答なし	

2. 今回参加した理由は？

a.福島や被災地に関心があるから	19
b.講演者に関心があるから	5
c.講演のテーマに関心があるから	5
d.日程や会場がよかったから	4
e.その他	0
回答なし	

3. 今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

a.よかった	15
b.ふつう	0
c.よくなかった	1
回答なし	4
〔自由記述〕	
福島や双葉郡の現状がかいま見られたから。	
ディスカッション形式の部分は分かりやすかったです。	
講演者とディスカッションがあり深まった点。	
全員の発言の機会を作ったこと。	
講師のお人柄。	
kfopの活動では普段知る事ができない事を知ることができた。	
前半の講演者の話が総花的で焦点がボケていた。後半の討論もはっきりしなかった。	

4. 今回の講演についてのご感想・ご意見など、自由にお書きください

避難解除、復興庁終了等 現地の状況が変化の中で最新の多くの情報を得られました。参加メンバーからも活発な意見、想いが出されて充実した内容でした。
学生を現地に連れて行った部分の反応は新鮮で（自分の子どもも同年代）、観光中心に知っているメンバーが積極的に出かけて発信することの重要性再認識しました。
人とのふれあいが一番だと感じる勉強会でした。色々な話を聞く事ができ、あらためて福島へ行きたい気持ちになりました
現地の、もとのからの住民はなかなか元気になれず、外からの人が来てこれからの起爆剤作りがんばっているのだなと感じた。
8年経って活動のテーマが変わりつつあると感じています。今後のヒントになりました。

色々なデータや人の思いなど聞き、参考になりました。これからも自分なりに福島のことを考えていこうと思います。
知らない話を盛り沢山にお聞き出来て良かったです。個人的には電力の話で、東京電力地域でも利用可能なのが衝撃的でした。公共交通機関が回復してきた事など元気な話が聞けて良かったです。
一般の人に福島情報を伝えることは貴重である。
相双地区にもっと行きたい、気軽にいつでも行けたら良いと思いました。
現地の具体的な受け入れ体制や受け入れ方法、受け入れの可能性を伺った。これから自分の活動としてどのように具体的に実施に移せるか、また広く一般の人々が加わった活動として実施に繋げるかが課題と思った。そのためには今回の鈴木さんあるいは平山さんの活動をより広く紹介、PRすることが必要と思う。
知らない福島の今を聞くことができよかったです。前向きで楽しいお話が聞かれて嬉しかったです。知らないことが多いと改めて気づかされました。積極的にアンテナを張っていかないと…反省。
今回は福島のことを色々知れて良かった。自分が行った所とのつながりが深まったと思います。現地に行くことの大切さ、聞くことの大切さ一層わかりました。ありがとうございました。
みんなの電力は知っていながら、なんとなく変更していなかった。この「なんとなく」が一番よくねえーと思いました。相馬のみそはうまいです。行くと必ず買います。末廣もうまいです。横浜でも買えるのがうれしい。
支援者目線の話が多い中、当事者の話もいいのかも。

5. 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

今回と同じように福島につながるのある方の話をきいてみたいです。
福島県の話をお聞きできるなら。知らないことはまだまだありそうですね。語り部されている方とか聞く価値ありそうですね。
現地でボランティアを受け入れている方。
漁師さんなど一般の方。
福島出身の芸能人、アーティスト。
Uターン、Iターンのつてになるきっかけ作り。
福島に係わってほかの団体との交流ができるといいですね。kfopとしても他団体に係わりたいですね。
kfopの方の思いを聞いてみたい。

6. あなたご自身についてお答えください。(あてはまるものに○をつけてください)

性別	男性 (13)、女性 (6)、無回答 (1)
年代	20代 (--)、30代 (--)、40代 (2)、50代 (10)、60代 (5)、70代以上 (3)
職業	会社員/会社役員 (7)、公務員 (1)、自営業 (2)、パート/アルバイト (1)、学生 (--)、専業主婦/主夫 (--)、その他 (3)、働いていない (5)、回答なし (1)

以上

4. 資料

(1) 勉強会チラシ

2019年度kfop勉強会 

福島とのさまざまな関わり方 と今後の展望

2019年
6月15日(土)
午後2時30分～
(受付開始：2時15分)

東京電力福島第一原発事故による避難を経験した福島県双葉郡では、避難指示の解除が段階的に進み、現地の様子はここ数年で大きく様変わりしつつあります。

新たなコミュニティ形成を目指す個人や団体が地道に努力している一方で、さまざまな事情で帰還できずにいる方も数多くいます。

今回、中間支援の立場で長く福島にかかわってこられた講師をお招きし、さまざまな取り組みや展望についてお話しいただきます。

講話：鈴木亮氏

一般社団法人ふたすけ理事／ふたば地域サポートセンターふたすけセンター長

14:30～15:20 講話／15:20～16:20 フロアディスカッション
17:00～19:00 懇親会（別会場、会費制）


主催：かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop） <https://kfop.jimdo.com/>

会場：
八洲学園大学 9A教室
神奈川県横浜市西区桜木町7-42
（横浜駅東口から徒歩10分）

定員：50名（事前申込）

参加費：勉強会のみ 無料
懇親会は会費制です

お申し込み方法：
Webの申し込み
フォームから



または電子メールで
info.kfop@gmail.com
お名前、参加人数、代表者ご連絡先、懇親会の出欠、kfopからの今後のメール配信への同意/不同意をお知らせください

